

再評価結果（平成31年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・技術課
担当課長名：東川 直正

事業名 一般国道10号 <small>みやこのじょう</small> 都城道路	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 九州地方整備局			
起終点 自：宮崎県都城市乙房町 至：宮崎県都城市五十町	延長 7.7km				
事業概要 都城道路は、地域高規格道路「都城志布志道路」の一部として、都城IC～志布志港を結ぶ広域ネットワークを形成するとともに、都城市街地の交通混雑の緩和等を目的とした事業である。					
H12年度事業化	H11年度都市計画決定 (H一年度変更)	H13年度用地着手			
H18年度工事着手					
全体事業費 約404億円	事業進捗率 約75% <small>(平成30年3月末時点)</small>	供用済延長 1.9km			
計画交通量 25,900～38,300台/日					
費用対効果分析結果	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;"> B/C <small>(事業全体)</small> 2.5 <small>(残事業)</small> 9.4 </td> <td style="text-align: center;"> 総費用 <small>(残事業)/(事業全体)</small> 105/474億円 (事業費：89/442億円 維持管理費：16/32億円) </td> <td style="text-align: center;"> 総便益 <small>(残事業)/(事業全体)</small> 990/1,174億円 (走行時間短縮便益：742/888億円 走行経費減少便益：159/186億円 交通事故減少便益：88/100億円) </td> </tr> </table>	B/C <small>(事業全体)</small> 2.5 <small>(残事業)</small> 9.4	総費用 <small>(残事業)/(事業全体)</small> 105/474億円 (事業費：89/442億円 維持管理費：16/32億円)	総便益 <small>(残事業)/(事業全体)</small> 990/1,174億円 (走行時間短縮便益：742/888億円 走行経費減少便益：159/186億円 交通事故減少便益：88/100億円)	基準年 平成30年
B/C <small>(事業全体)</small> 2.5 <small>(残事業)</small> 9.4	総費用 <small>(残事業)/(事業全体)</small> 105/474億円 (事業費：89/442億円 維持管理費：16/32億円)	総便益 <small>(残事業)/(事業全体)</small> 990/1,174億円 (走行時間短縮便益：742/888億円 走行経費減少便益：159/186億円 交通事故減少便益：88/100億円)			
感度分析の結果 【事業全体】交通量：B/C=2.4～2.6（交通量 ±10%） 事業費：B/C=2.4～2.5（事業費 ±10%） 事業期間：B/C=2.4～2.6（事業期間±20%）					
【残事業】交通量：B/C=9.0～9.9（交通量 ±10%） 事業費：B/C=8.7～10.3（事業費 ±10%） 事業期間：B/C=8.8～9.8（事業期間±20%）					
事業の効果等					
①交通混雑の緩和 ・都城市街地部には主要渋滞箇所が点在するなど渋滞が著しい状況にあるが、国道10号の交通が都城道路へ転換することで、交通混雑の緩和が期待される。					
②広域交通ネットワークの形成 ・九州最大飼料ターミナルである志布志港と都城市等の全国有数の畜産地域を結ぶ広域ネットワークが形成され、円滑な輸送が実現、畜産業をはじめとする物流の効率化が期待される。					
③沿道立地の効果 ・都城志布志道路を活かした工業団地造成や企業誘致等に都城市が取り組んでおり、道路整備とともに、企業立地の促進や雇用創出など地域活性化に大きな効果が期待される。					
④生活環境の改善 ・自動車の走行性向上による環境への影響低減（CO ₂ 、NO ₂ 、SPM削減）					
関係する地方公共団体等の意見 都城市をはじめとする関係首長及び議会議員等で構成される①都城志布志道路建設促進協議会（会長：都城市長）や②都城志布志道路早期完成促進民間協議会（会長：都城商工会議所）等により早期整備の要望を受けている。（①②ともに平成30年5月）					
県の意見 都城道路につきましては、九州縦貫自動車道宮崎線都城ICと国際バルク戦略港湾志布志港を連結する地域高規格道路都城志布志道路として広域ネットワークを形成し、南九州圏域の経済や地域の活性化などに大きな役割を果たす重要な道路であります。 また、都城市街地の交通混雑の緩和や沿道環境の改善、交通安全性の向上にも寄与する大切な道路でもあります。 さらに、大規模災害時や異常気象時における人命救助や物資の輸送を担う機能も有しており、防災や医療の道としても非常に大きな役割を担う道路として、地域住民からも早期整備を求める要望がなされていることから、「対応方針（原案）」の「継続」について異論はなく、早期供用に向けて一層の整備推進をお願いします。					
事業評価監視委員会の意見 審議の結果、事業継続。					

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

都城市の人口は減少傾向にあるが、一世帯あたりの自動車保有台数は、宮崎県・九州全体を上回っており、自動車交通への依存は高い状況にある。国道10号現道の交通量は2.7万台/日前後で推移しており、依然として事業の必要性は高い。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成12年度に事業化、用地進捗率100%、事業進捗率約75%（平成30年3月末時点）

平成23年度：平塚IC～五十町IC間 延長1.9km（2/4）開通

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

地元や関係機関との協力体制のもと、今後も引き続き残工事等の事業進捗を図っていく。

平成30年度：横市IC～平塚IC間 延長2.8km（2/4）開通予定

平成33年度：乙房IC(仮称)～横市IC間 延長3.0km（2/4）開通予定

施設の構造や工法の変更等

軟弱地盤対策の追加、地下水対策及び浸食対策の追加

新技術・新工法の積極的な活用及び建設副産物対策により、着実なコスト縮減に努める。

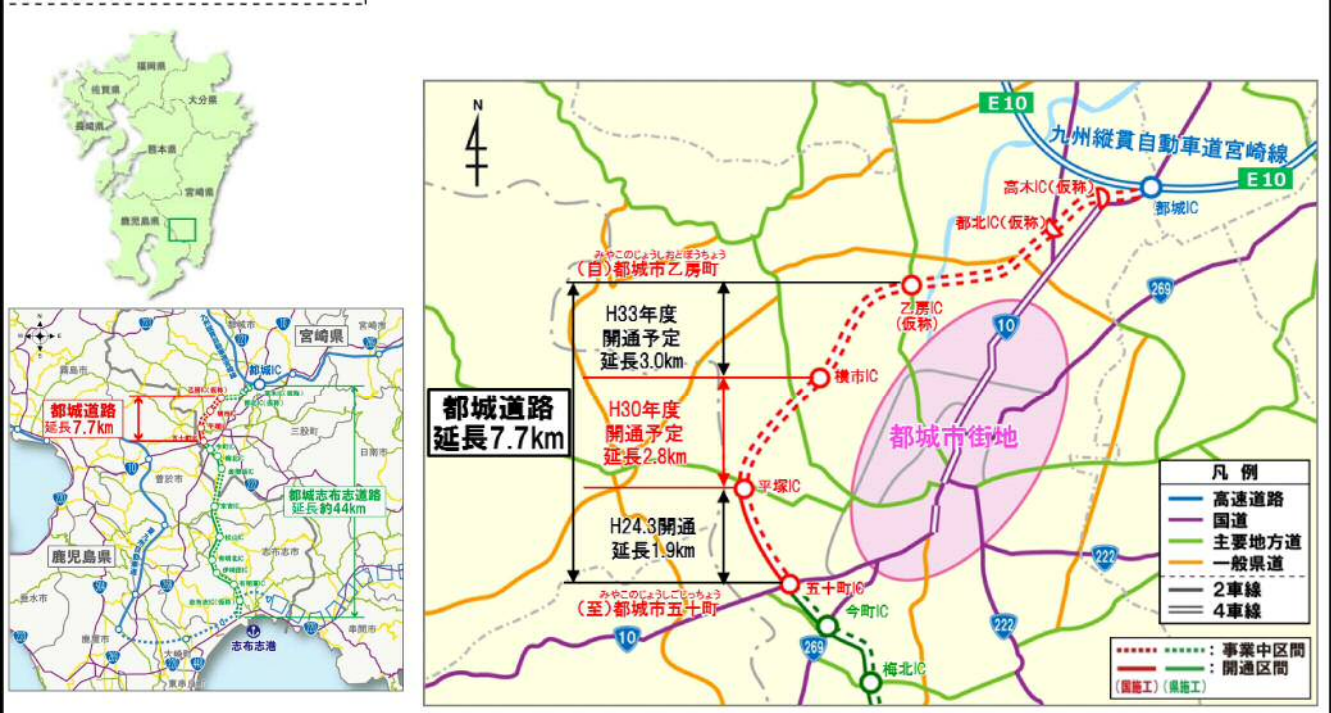
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。

※総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。